

未来の学校

発表者 国際ネットワーク学習研究会 田中 博之

私たちの班では、未来の学校のイメージを、次のような3つの観点でとらえました。

1. 校長のリーダーシップのもとに、新しい教育のあり方に積極的にチャレンジする教師集団が活躍する学校

特に、情報教育や総合的な学習といった新しい教育のあり方について経験の少ない教師集団を活性化するのは、校長のリーダーシップをおいて他にありません。校長自らが、校長室でコンピュータやインターネットを扱うことが大切です。常に学び続ける校長の役割が、ますます重要になってくるでしょう。

2. 家庭、地域、教育委員会が積極的に学校教育をバックアップする学校

これからの学校教育を支えるのは、家庭、地域、教育委員会です。不登校やいじめといった問題の解決から、基礎学力の充実、総合的な学習での人材の派遣といった多くの点から、多様なサポート体制を確立することが求められています。もはや、学校や学級に存在する全ての課題を、一人の教師で解決することはできません。

また、予算や設備の充実といった側面からのバックアップについては、教育委員会の一層のサポートの充実が望まれます。

3. 国内や海外の姉妹校と学校間交流を積極的に推進する開かれた学校

これからの情報教育では、インターネットやテレビ会議システムを用いた学校間交流学習が盛んになってきます。学校や学級の壁を開いて、子どもたちの視野を国内外に広げて、多くの友だちを持つことによって、地球規模での問題解決やコミュニケーションのために、情報通信技術を活用する力を育成することが大切です。その時、学校間での授業づくりを行う必要が生まれます。教師にとっても、共同的な授業設計や授業評価を行う資質の育成が求められるようになってくるでしょう。

このような3つの点からの学校改革が行われたときに、子どもたちは、21世紀の高度情報通信社会に生きる力として、情報活用の実践力やコミュニケーション能力、異文化理解能力などを身につけていくことができるようになるでしょう。21世紀において情報教育は、そのために重要な学校教育の柱になるものに違いありません。